

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆ 2010年10月9日・10日の両日、神戸大学との共催で、2010年度日本語教育学会秋季大会が神戸大学鶴甲第1キャンパスで開催された。今回は、受け付けた参加者が724名、発表者・招待者・関係者が74名で、総計798名の参加者があった。

1. 1日目は、6つのパネルセッションと2つの特別企画パネルセッションが行われた。多彩なテーマでのパネルが揃い、どのパネルも多数の参加を得て、充実した発表および議論が行われた。特別企画パネルセッションは、当学会の特定課題事業の遂行のために設置されている2つのワーキンググループの企画により行われたもので、学会員および日本語教育周辺領域の幅広い人々への情報発信・議論喚起の場として設けられた。なお、特別企画パネルでは、その趣旨を生かすため、非会員向けの特別参加枠を設け、学会外から21名の参加を得た。

2. 懇親会は、同じキャンパスの国際文化学部食堂で行われた。参加者数148名と盛況であった。懇親会では、次回開催校の東京国際大学の岡本能里子氏より挨拶があった。

3. 2日目には、四つの会場で30件の口頭発表、二つの会場で16件のポスター発表、二つの会場で5件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。今回は午後のポスター発表を昼休みの時間帯から始めるなど、口頭発表とポスター発表の時間帯をずらす工夫を行った。発表会場はどこも盛況であった。

◆ 2010年10月10日、神戸大学鶴甲第1キャンパス国際文化学部B棟B203教室において、2010年度第4回大会委員会が開かれた。主な課題と審議の様子は、以下のとおりである。

1. 2011年度春季大会の企画・運営について
岡本能里子氏（東京国際大学）より春季大会の準備状況について報告を受けた。

2. 今大会実施状況中間報告

・1日目に会場入り口の案内の不備や、会場のマイクの混線などの問題があったが、2日目はそれに対する対策を行った。パネルなどでのマイクの使用に関しては、会場校内での手配だけでは対応できない場合もあり、会場校の状況に応じて対応策が必要である。

・参加費を払わずに参加している学生がいた。参加費の納入を今後も周知させる必要がある。

3. 2011年度秋季大会の企画・運営について

(1)2011年秋季大会企画ワーキンググループ（以下WG）の責任者の松岡副委員長より、以下の報告があり承認した。

大会への集客数（県外からの宿泊者数）に応じた県による助成制度を活用するために、大会前日から1日目の午前までの、大学院生を主な対象とした合宿研修を行う。また、同じく大会前日に、日本語教育学会のテーマ領域別研究会（以下SIG）に研究会を設けられないか打診したところ、3つのSIGが実施可能であることがわかった。SIGの研究会は各SIGの主催で行われるが、学会で会場の提供、宣伝などの協力を行う。今後、開催可能性のある3つのSIGに対して、正式な依頼を行う。

(2)大会委員会特別企画パネルに関して

2011年秋季大会WGでの検討を受けて、大会1日目の午後に、通常のパネルと並行して「大会委員会特別企画パネル」を実施することを決定し、企画の検討および実施のために大会委員会特別企画WGを発足させた。

5. 2011年度委員改選について

来年7月の改選に向けた候補者の推薦の手順とスケジュールについて確認した。

6. 2012年度以降の大会について

2012年春季および2012年秋季大会の会場について、検討状況についての報告があった。

7. ポスター・デモ発表形態検討WGの中間報告

WGの責任者の宮副副委員長よりこれまでのWGでの検討内容について報告があった。今後、大会委員を対象にアンケートを行い、時間をかけて検討することになった。

8. 発表要旨のweb掲載について

発表要旨のweb掲載に伴う大会研究発表規定の変更について承認した。

9. 今後の委員会日程

次回の委員会は、2011年1月29日(土)に東方学会本館において行う。

(二通 信子)

● 学会誌委員会

11月6日(土)午後2時～5時15分早稲田大学にて学会誌委員会を開催した（出席委員16名、事務局員1名、欠席委員7名）。

147号の進捗状況、148号と150号の特集の進捗状況の報告のあと、以下について審議した。

1. 148号のコラム「海外の学会から」に掲載する学会の選定

2. 148号投稿論文の採否審査

3. 林大記念論文賞選考部会員の選任

4. 来年度以降の委員会運営体制の検討
5. 次期委員の推薦・次期査読協力者（副査）の選考手順の確認
6. 152号特集のWGの立ち上げ

上記審議事項の1・5は、説明の後、メール審議とした。2については、応募50本（研究論文30本、調査報告8本、実践報告9本、研究ノート3本）のうち、条件採用3本（研究論文3本）、再投稿15本（研究論文8本、調査報告2本、実践報告3本、研究ノート2本）、不採用32本という結果になった。なお、前回の査読結果が「再投稿」で、投稿者の判断でカテゴリーを変更して投稿した場合、再投稿として認めることが再確認された。また、再投稿で投稿者の判断で大幅に修正することは自由だが、その際には理由を提出してもらうことを確認した。3は、部外秘の委員が選任された。4は、主に査読方式について活発に意見が交わされたが、継続審議となった。6については、主担当者に池上委員を選任した。

次回委員会予定：2011年3月5日(土)

(廣瀬 正宣)

● 研究集会委員会

1. 研究集会報告

1. 2010年度第4回研究集会（北陸地区）

日時：2010年6月19日(土)10:00～17:00

会場：金沢大学サテライトプラザ

参加人数：73名（会員29名、一般23名、未記入21名）

内容：研究発表4件、講演およびワークショップ 講師 庵功雄氏（一橋大学国際教育センター准教授）講演題目「日本語教育文法から見た「は」と「が」一産出に結びつく規則化を目指して」

ワークショップ テーマ1「ボイス：受け身、使役、授受を中心に」テーマ2「テンス・アスペクト：タ形とテイル形を中心に」

著名な講師を迎え、北陸地区としては盛会となった。講演・ワークショップは、内容が連動していたこと（講演で学んだことをワークショップで応用する）、小グループに分かれ議論したことが評価され、アンケートで非常に参考になったとの意見が多くあった。

研究発表については、一部の発表で、内容が発表の水準に達していないのではないかという指摘がアンケートであった。北陸地区では、もともと研究発表の応募が少ないため、多少採用の基準が甘めになったかもしれない。応募数を増やす工夫をし、研究の水準の底上げを図っていかねばならないと考えている。

(報告者：峯 正志)

2. 2010年度第5回研究集会（北海道地区）

日時：2010年7月3日(土)12:00～17:50

会場：藤女子大学北16条キャンパス

参加人数：74名（会員30名、北海道日本語教育ネットワーク会員15名、一般29名）

内容：研究発表4件、ポスター発表2件、ワークショップ 講師：伊東祐郎氏（東京外国語大学教授）題目「"Can-Do Statements"とテストングパフォーマンステストを再考する」

研究発表は、口頭発表4件、ポスター発表2件が行われた。内容は、文法に関するものから、学習資源としてのアニメ映画利用の可能性、ボランティア養成講座の実践報告、「平易な日本語」についての提言、など多岐にわたり、活発な質疑応答が交わされた。ワークショップでは、講師の伊東祐郎氏に「Can-Do Statements」とは何か、について、基本からわかりやすく説明いただいた。実際に自分自身の言語能力を記述化することで、具体的にどのような視点で評価を行うべきかを考えた。各グループでは活発な意見交換がなされ、テスト・評価法のみならず、その根本となる言語能力について、またその指導法について考え直す有意義な機会となった。今年度より新しい日本語能力試験が始まるということもあり、「評価」に対する関心は高く、大学教員から、日本語学校教員、ボランティア、大学院生、日本語教員養成課程の学生まで幅広い参加があった。様々な立場で日本語教育に携わる参加者が情報交換する姿も見られ、意義ある交流の場にもなった。

(報告者：副田 恵理子)

3. 2010年度第6回研究集会（東京地区）

日本語教育実践研究フォーラム

「実践研究からの発信—現場の「問い」を「研究」にする記述・分析—

日時：2010年7月24日(土)10:00～16:30

7月25日(日)9:30～16:30

会場：桜美林大学町田キャンパス

参加人数：178名

内容：ラウンドテーブル7件、ポスター発表9件 講演・パネルセッション 講師 大谷尚氏（名古屋大学教授）題目「どのように教育実践を記述・分析するか」

※実践研究フォーラム報告詳細は本誌120～131ページ参照のこと。

4. 2010年度第7回研究集会（関西地区）

日時：2010年9月11日(土)13:00～17:10

会場：京都外国語大学

参加人数：88名（会員44名、一般44名）

内容：研究発表 10 件、講演 講師 庄司博史氏（国立民族学博物館教授） 題目「もう一つの移民言語政策—移民にとっての母語教育—」

講演の部では、日本語教育界において重要な課題である移民言語政策について、非学会員の講師を招き、日本語教育の外の視点から見たこの問題について講演していただいた。「移民の母語」概念に付加されている政治性や情緒性などの意味を考察した後、スウェーデンやフィンランドの公立学校での事例の紹介を含め、論が展開された。バイリンガル教育や自己同一化などの理論を学者や活動家たちが正当化のために振りかざしている現代の問題点を指摘した上で、母語教育の重要性、本質性を認識する必要性を問いかけた。客観的な視点に立っての論であり、目の前の移民の問題をややもすれば感情的に対処しがちな状況を改めて冷静に見つめ直す機会となった。研究発表の部は、3会場で10本の口頭発表が行われ、日本語教育内容、日本語環境、教師等々、それぞれ熱心な議論が展開された。残暑厳しい中、多くの参加者が集まり、いい学び合いの機会となった。

（報告者：由井 紀久子）

II. 会議記録

◆ 2010年度第2回研究集会全体委員会（10月9日）

1. 各地区研究集会についての報告と予定
2. 各地区研究集会の課題・問題等
3. 研究集会発表要旨のホームページ掲載
2011年度から学会誌掲載はせずにホームページに掲載することが承認された。
4. その他

◆ 2010年度第4回研究集会中央委員会（10月14日）

1. 全体委員会会議報告
2. 2010年度WEB版実践研究フォーラム報告
3. 学会誌『日本語教育』へのフォーラム原稿
4. 2011年度実践研究フォーラムについて
5. 次期委員選考について
6. その他

※次回会議予定

全体委員会 2011年5月21日(土)

中央委員会 2010年12月2日(木)

(堀井 恵子)

● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 日本語教師が知っておきたい「日本在住外国人の社会的状況と法制度」

講師：小松原祥一（小松原行政書士事務所 行政書士）

コーディネーター：黒崎誠、齋藤ひろみ（教師研修委員）

開催日：2010年9月11日(土)13:00~17:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館
参加者：53名

2. 専門日本語教育ワークショップ「介護」

講師：神吉宇一（AOTS日本語教育センター）、登里民子（国際交流基金関西国際センター）

情報提供者：野村愛（株式会社キーマックスマリタイム/アSEND教育財団）、斉木美紀（AOTS横浜研修センター）、西山陽子（AOTS横浜研修センター）、奥村恵子（早稲田大学）、中野玲子（同）、早川直子（同）

コーディネーター：嶋田和子（教師研修委員）

開催日：2010年11月13日(土)10:00~17:00

場所：(財)海外技術者研修協会（AOTS）東京研修センター
参加者：67名

II. 2010年度後半の研修予定

1. 授業実践から日本語のコースを見直す—カリキュラム評価を活かすコース改善—

開催日：2011年1月15日(土)

場所：桜美林大学四谷キャンパス

2. 教室活動のデザインIV

開催日：2011年2月12日(土)

場所：桜美林大学四谷キャンパス

3. 専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」

開催日：2011年3月5日(土)

場所：政策研究大学院大学

◆ 「日本語教師研修コース」についての詳細は日本語教育学会 Website の教師研修ページをご覧ください。詳細が決まり次第、順次ホームページに掲載していきます。

<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/menu-kenshu.htm>

III. 委員会での討議事項

1. 2010年度第3回教師研修委員会(10月2日)

(1)2010年度研修の報告

- ・日本語教師のための統計学入門
- ・夏季集中研修
- ・日本語教師が知っておきたい「日本在住外国人の社会的状況と法制度」

(2)2010年度後半の研修計画詳細

- ・専門日本語教育ワークショップ「介護」
- ・カリキュラム評価
- ・教室活動のデザインIV
- ・専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」

(3)統計書籍について

- (4)今後の教師研修委員会のあり方について
- (5)次期委員選考について
- (6)次年度計画について

力試験分析報告書』(CD-ROM)が完成したことが報告された。

(野口 裕之)

※次回会議予定

2010年度第4回教師研修委員会

2010年11月26日(金)18:30~20:30

(嶋田 和子)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 試験分析委員会

第4回試験分析委員会 2010年7月24日(土)

1. 『平成21年度(2009年7月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(聴解,第2章)について話し合われた。
2. 『平成21年度(2009年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(文字・語彙,読解・文法,聴解,第2章)について話し合われた。
3. 2008年度報告書原稿の校正について,業者への依頼事項を確認した。

第5回試験分析委員会 2010年8月25日(水)

1. 『平成21年度(2009年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(聴解,文字・語彙,読解・文法,第2章)について話し合われた。
2. 2008年度報告書原稿の校正について,業者への依頼事項を確認した。
3. 2009年度第2回試験の読解・文法2級のデータミスについて説明があった。

第6回試験分析委員会 2010年9月25日(土)

1. 『平成21年度(2009年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(読解・文法,文字・語彙,第2章,聴解)について話し合われた。
2. 旧試験小委員会との合同委員会に相当する会議について,日時と出席者について報告があり,原稿提出の日程について確認がなされた。
3. 聴解1級問題II 15番(仮題:非常事態)について意見交換を行った。

第7回試験分析委員会 2010年10月22日(金)

1. 『平成21年度(2009年12月実施)日本語能力試験分析報告書』の原稿(聴解,文字・語彙,第2章)について話し合われた。
2. 『平成21年度(2009年実施)日本語能力試験分析報告書』は,最後の日本語応力試験分析報告書となるため,これまでの試験分析委員会を統括する章を設けることになった。
3. 旧試験小委員会との合同委員会に相当する会議について,日時,進行方法,原稿提出の日程が確認された。
4. 『平成20年度(2008年12月実施)日本語能

- 会員名簿のホームページへのメールアドレス掲載についてご連絡

8月23日付会員宛文書「2010年版会員名簿作成とホームページ掲載について」でお願いし,9月30日まで受け付けた更新データが現在ホームページに掲載されておりますが,メールアドレスについては,セキュリティへの懸念が一部寄せられていることもあり,アクセス制限を設ける等の対応策を講じたくて掲載いたします。

- 2010(平成22)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して,会員各位の教育・研究に資すること,並びに,海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り,会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は,必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○銀行振込 みずほ銀行新橋支店

(普)130-880757

○現金書留

○クレジットカード支払(海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください)。

銀行の支店の統合により,「みずほ銀行」への会費振込先が上記のとおり変更になりました。ご注意ください。

- 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に,「年度会費の自動引落システム」の運用を開始いたしました。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)をご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

○普通会员 10,000円(年額)

○賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX	: 03-5216-7552
E-mail	: kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp